

校内研究会における指導・助言からの学び

令和3年7月1日（木）

第6学年2組 学級活動（1）「展覧会の学級共同作品を決めよう」

講師 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 安部 恭子先生

子供からの提案が重要

学校ならではの学びは、「互いに励まし合い、認め合いながら成長すること」です。ところが、これまでのようにはできなくなりました。そのため、工夫することが必要で、子供からの提案が重要となります。

掲示物の重要性

掲示物を通して自己を振り返ることができます。また、掲示物を通しての学び合いもできます。子供にとってコメント（先生からの言葉）をもらえることは、大変重要です。

プラス言葉

「6年2組当たり前10か条」が、マイナス言葉になっていないことが良かったです。プラス言葉を増やしていくことを意識しましょう。意識してプラス言葉を使うことが大切です。お互いの頑張りを認め合うことです。

バースアイ・ミーティング

総合的な学習の時間で使えます。決まっていることを明確にしておくことが大切です。話合いのリーダーの経験を固定せず、多くの児童に経験させることで学びの集団の質がさらに高まります。

話合いにおけるタブレット

タブレットPCを見ての発表ではなく、みんなの方を見て発表させましょう。相手に聞いてもらう発表は、すべての授業で共通することです。タブレットのよさは、自分の考えを集団の中のみ込ませず、自分の考えをもつことができることです。

小グループの話合い

一つにまとめることは厳しいが、思考を広げたり深めたりすることができます。また、新しい発想に繋がります。最終的に、自分の想いを自分の言葉で伝えることができる子供を育てることが重要です。

ゴールをイメージ

見通しをもたせることが大切です。実際の場合を意識した発言は、ゴールをイメージできています。イメージをもたせるためには、話合いの視点を明確にしておきます。分類整理をしながら話合いを進めます。

終末の評価

先生による終末の助言が大切です。話し合っよかったなと子供が実感できるよう、終末の助言では子供の発言等を価値付けてあげる先生の言葉が、次なる視点に繋がります。

合意すること

合意することとは、優先順位をつけたり、一つのことを決めたりすることではありません。

学級会

学級の実態が現れます。どうすればみんなの想いをまとめられるか、前の活動や各教科等で学んだ力を生かして合意形成を図る場です。